

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集: FXニュースレター

執筆担当: 斎藤登美夫

◆◆◆ No.0746 ◆◆◆

23/07/12

【 実質的な価値を示す「円実効相場」も大きく円安進行 】

為替の実勢相場が円全面安商状をたどっていることもあり、円の実質的な価値を示す「実効相場」も大きく円安が進行している。詳細は後述するが、日銀発表のデータによると、最新である 5 月末段階の円実効相場は 80.54。これは昨年 11 月以来の「円安水準」だ。

6 月 28 日付の当レターで「実弾為替介入実施の可能性」の話を取り上げた際、説明を省いたなかに「当局はドル/円やユーロ/円など単体の通貨ペアではなく実効レートをさらに重視している」という話が実はあった。本稿執筆時にかけ、ここ数日間は幾分円安傾向が和らいでいるものの、それでも円実効相場はなかなか危険なレベルへと再び達しつつあるようだ。

◎実勢相場だけでなく、円実効相場も「円買い介入」実施を示唆

下のグラフは、1981 年以降のドル/円・月足と、日銀発表の月次・円実効相場(名目実効相場=特定の 2 通貨間の為替レートをみているだけでは捉えられない、総合的な為替レートの変動をみるための指標。対象となるすべての通貨と日本円とのあいだの 2 通貨間為替レートを、貿易額等で計った相対的な重要度でウエイト付けて集計・算出)になる。

そして、ドル/円のグラフ(左軸)はいわゆる「通常」の状態だが、円実効相場(右軸)は比較しやすいように上に行くほど「円安が進行する」形で軸を反転して掲載していることをお断りしておきたい。

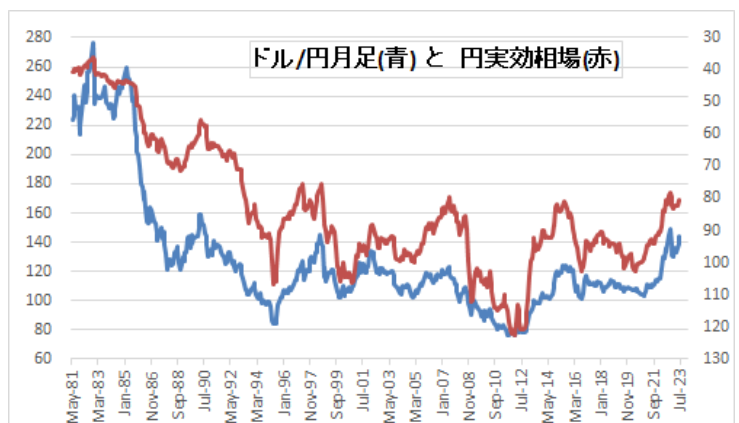
いずれにしても、それからすると現在の円実効相場はわずかに及ばないものの、昨年 10 月のドル/円実勢相場が 151.94 円を示現したレベルに急接近するなど、過去 20 年程度でもっとも円安が進行している一連の動きのなかにあると言ってもよい。そんな過去の経験則を参考すれば 75-76 はなかなか強い抵抗となりそうだが、超えていくようだ円実効相場も 60 台へ。そして、歩調を合わせる格好でドル/円の実勢相場は 160 円台へとドル高・円安が進む可能性も否定できない。

そして、それを逆に言うのなら、円実効相場 75-76 への接近は日本の政府・財務省、そしてデータを発表している日銀にとってもかなり注意を要するレベルで、ある種の「防衛ライン」であるとも言えそうだ。

事実、別途発表されている「外国為替平衡操作」と掛け合わせて考えてみると、昨年実施された政府・財務省の円買い介入はドル/円の実勢相場がザックリ 143-152 円、円実効相場は 78-80 のときに実施されている。

また、それ以前の円買い介入となると 15 年以上前の 1998 年 4 月と同 6 月まで遡る必要があるのだが、当時のドル/円実勢レートはおおよそ 130-145 円。円実効相場は 77-80 だったことがわかっている。

これからすると、ここ数カ月の為替相場はドル/円の実勢相場はもちろんのこと、円実効相場の観点でもなかなか危険な状況に達しつつあると考えて間違いなさそうだ。現在実勢相場における円安商状は小康となっているものの、再び円安が進行するようだ当局からの「防衛的な措置」、平たく言えば「円買い介入」が観測されてもまったく不思議はないだろう。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。